

# 平成30年度事業報告

社会福祉法人 啓光福社会

- I 法人本部
- II 啓光学園 ・ なかまの樹
- III 啓光ホーム
- IV 啓光えがお
- V 啓光相談支援センター

# 経営理念

- 一人ひとりの尊厳を重んじ、利用者本位の経営を行う。
- 支援技術の高い職員を育成し、福祉サービスの向上を図る。
- 計画的、経済的で、職員参加型の運営を行う。
- 地域にとけ込み、福祉の充実・発展に寄与する。

## 法人全体の総括

平成 30 年度は、長年の課題であった啓光ホール北側道路の拡幅工事が完了した。この拡幅は、隣接する地権者の土地提供のご協力を得て、幅員 3m の市道を 4.5m に拡幅することが出来た。今後は、道路拡幅に伴い啓光ホール敷地の有効活用の検討を進めて行く。

また、啓光ホーム伊野の老朽化に伴う移転先については、一ノ宮 4 丁目に借地を確保し、快適で、ゆとりのある空間を作り出すことが出来た。平成 31 年 1 月から「啓光ホームおおぐり」として、新たな生活をスタートした。

さらに、給食業務関係では、平成 22 年 4 月より啓光えがおの昼食を啓光学園厨房にて調理し、運搬・配膳を行っていたが、多摩市の配慮により多摩市総合福祉センター内の厨房を借用することができ、新年度より調理仕立ての給食が配膳できることになった。

利用者関係では、児童部の過齡児対応として、平成 29 年春に成人施設への移行が進められた後、利用者の欠員が埋まらず年間 1.5 人分の減員状態が続いたが、年度末に満床となった。

運営関係では、災害時事業継続計画（BCP）を作成し、大雨、地震、土砂災害等における最低限確保すべきサービスを継続させるための基本方針等を定めた。次年度以降、災害時事業継続計画に基づき訓練等を行い利用者サービスの確保に努める。

### 《事業実施評価結果》

A… 達成、B… 一部達成、C… 未達成

事業所	評価	達成度			
		A	B	C	計
法人本部	評価数	4	6	3	13
	割合	31%	46%	23%	100%
啓光学園	評価数	11	6	3	20
	割合	55%	30%	15%	100%
啓光ホーム	評価数	15	4	1	20
	割合	75%	20%	5%	100%
啓光えがお	評価数	15	9	0	24
	割合	63%	37%	0%	100%
啓光相談支援センター	評価数	5	3	0	8
	割合	63%	37%	0%	100%
計	評価数	50	28	7	85
	割合	59%	33%	8%	100%

※ 事案の重要性に関わらず単純集計したもの

# I 法人本部

## 1 評議員会・理事会及び監査

(1) 評議員8名、理事7名、監事2名

(2) 理事会・評議員会の開催状況

開催年月日	提 案 議 案 等	理事会 議決	評議員会 議決
第1回評議員会 H. 30. 4. 10	報告事項 ・ 事業活動報告（12月～3月） ・ 平成30年度事業計画 ・ 平成30年度当初予算		
第1回理事会 (定期理事会) H. 30. 6. 3	報告事項 ・ 事業活動報告（4月、5月） 議案 ・ 平成29年度事業報告 ・ 平成29年度決算報告（監事監査報告） 協議事項 ・ 第二用地活用計画 ・ グループホーム整備計画	○ ○	
第2回評議員会 (定時評議員会) H. 30. 6. 20	議案 ・ 平成29年度決算報告（監事監査報告） 報告事項 ・ 平成29年度事業報告 ・ 事業活動報告（4月～5月） ・ 第二用地活用（案） ・ グループホーム整備計画（案）		○
第2回理事会 H. 30. 7. 6	協議事項 ・ グループホーム候補地について 報告事項 ・ 啓光ホーム伊野の契約期間満了について ・ 日中サービス支援型グループホームについて ・ 平成31年4月からの「なかまの樹」新規利用者受入れについて ・ その他		

開催年月日	提 案 議 案 等	理事会 議決	評議員会 議決
第3回理事会 H. 30. 7. 24	協議事項 ・ 乞田地区グループホーム候補地調整報告 その他		
第4回理事会 H. 30. 9. 22	議案 ・ 有期契約職員・パートタイマー職員の就業規則改正 (案) について 報告事項 ・ 人材確保対策について ・ 新設グループホーム整備について ・ 平成31年度なかまの樹運営準備について ・ 給食業務について	○	
第5回理事会 H. 30. 10. 19	議案 ・ (仮称) 啓光ホーム乞田川事業の決定について その他	継続審議	
第6回理事会 (定期理事会) H30. 11. 17	報告事項 ・ 事業活動報告 (6月～11月) ・ 予算執行状況 議案 ・ 平成30年度第1次補正予算 (案) ・ 常用職員給与規程の一部改正 (案) ・ 啓光ホーム共同生活援助 (介護サービス包括型) 運用 規定の全部を改正する規程 (案) ・ 経理規程の一部改正 (案) 協議事項 ・ (仮称) 啓光ホーム乞田川賃貸借の基本合意書 (案) の締結について その他	○ ○ ○ ○	
第7回理事会 H. 30. 12. 21	議案 ・ 平成31年度給食業務委託事業者選定 (案) 報告・協議事項 ・ 新設グループホーム整備について	○	

開催年月日	提 案 議 案 等	理事会 議決	評議員会 議決
第8回理事会 (定期理事会) H31. 3. 23	報告事項 ・ 事業活動報告 ・ 予算執行状況 ・ 災害時事業継続計画 議案 ・ 平成30年度第2次補正予算 ・ 平成31年度事業計画 ・ 平成31年度当初予算 ・ 常用職員給与規則の一部改正 ・ 育児休業規則の一部改正 ・ 有期契約職員・パートタイマー職員等の就業規則の一部改正 ・ 法人組織規程の一部改正 ・ 啓光学園運営規程の一部改正 ・ 福祉型障害児入所施設啓光学園運営規程の一部改正 ・ 啓光学園短期入所運営規程の一部改正 ・ 啓光えがお運営規程の一部改正 ・ 啓光学園の設備管理、保安警備等業務委託契約 ・ 平成31年度第1回評議員会の招集事項 協議事項 ・ 役員候補者 その他	   ○	

(3) 法人監査

平成30年5月22日実施

(4) 会計処理の調査

公認会計士による会計調査を年4回実施

## 2 会議

(1) 経営会議（理事長、統括施設長、事務局長、施設長）

毎月開催 年 1 1 回

第二用地活用検討、グループホーム整備計画検討、新年度なかまの樹運営体制検討、新年度給食業務検討、新グループホーム整備検討、有期契約職員・パートタイマー職員等の就業規則改正検討、啓光ホーム共同生活援助運営規程改正検討、常用職員給与規程改正検討、有期契約職員の施設車両運転資格検討、平成31年度に向けた事業運営内容の検討、通勤手当算出方法の見直し検討、災害時事業運営計画（BCP）検討、育児休業規則改正検討、平成31年度事業計画検討等

(2) 運営会議（理事長、常務理事、事務局長、施設長、係長、主任）

毎月開催：年 1 2 回

(3) 中長期事業計画検討委員会（理事長、常務理事、事務局長、施設長、）

毎月開催：年 1 1 回

(4) その他

- ・給食検討委員会（管理栄養士、各施設代表者、委託先管理責任者）

毎月開催：年 1 2 回

## 3 実施報告【達成度】

凡例： ・… 計画、 → … 実績、  
A… 達成、 B… 一部達成、 C… 未達成

計画内容/実施内容	達成度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・啓光ホームおおぐり新築工事施工管理               <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 啓光ホーム伊野利用者の移転先として、一ノ宮 4 丁目 39 番 15 に敷地面積 340.46 m<sup>2</sup>を 30 年の定期借地を行い、木造 2 階建て、延床面積 271.91 m<sup>2</sup>の「啓光ホームおおぐり」新築工事を施工。平成 30 年 10 月竣工。</li> <li>工 期 平成 30 年 3 月～平成 30 年 10 月</li> <li>事業開始 平成 31 年 1 月</li> </ul> </li> </ul>	A
<ul style="list-style-type: none"> <li>・啓光学園北側道路拡幅工事施工管理               <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 隣接する土地所有者のご協力により道路拡幅工事を施工。</li> <li>多摩市和田 1717 番地 4 先道路</li> <li>工事延長 35.7m、幅員 4.5m</li> <li>工期 平成 30 年 1 月～平成 30 年 11 月</li> </ul> </li> </ul>	A
<ul style="list-style-type: none"> <li>・重度障害者グループホームの検討               <ul style="list-style-type: none"> <li>→ ○施設整備方法（啓光福祉会による施設整備又は建て貸し方式等の選択）</li> <li>○施設整備、事業運営に係る収支の想定（法人自己負担経費、補助金、利用者負担）</li> <li>○入居を必要とする利用者の状況の把握（人数、障害支援区分等）</li> <li>○候補地の情報収集、調査</li> </ul> </li> </ul>	B

計画内容/実施内容	達成度
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 第二用地有効活用の検討               <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 第二用地の敷地面積、法人の財務状況等を勘案し、実現可能な活用案を検証した。継続して最も有効な活用案を検討する。</li> </ul> </li> </ul>	B
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 社会福祉法人制度改正を踏まえて               <ul style="list-style-type: none"> <li>→ ○社会福祉充実残額がマイナスであり、社会福祉充実計画が不要であることを検証済。</li> <li>○地域における公益的な取組については、多摩市内社会福祉法人ネットワーク連絡会に参加し、車椅子貸し出し事業に参加した。また、引き続き新たな取組の検討を行う。</li> </ul> </li> </ul>	B
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 中長期事業計画の作成               <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 国、東京都、多摩市の障害者支援施策の動向を見据え、財政見通し、新規事業、施設管理、第二用地活用、重度障害者グループホーム整備、敷地拡大等への計画的な取組の検討を行い、中長期の事業運営計画を作成した。</li> </ul> </li> </ul>	A
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 人材の育成               <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 研修計画、人材育成計画の運用（各事業所参照）</li> </ul> </li> </ul>	B
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 人材活用               <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 多様な職員構成（常用、非常勤、パート）の活用と事業所間での職員人事異動を実施し、適材適所の配置を行った。</li> </ul> </li> </ul>	B
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 啓光だよりの発行               <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 平成 30 年 6 月（事業計画）、10 月（決算、行事）、平成 31 年 1 月発行 ※部数各 6 0 0 部</li> </ul> </li> </ul>	A
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 労働安全衛生委員会の検討               <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 労働安全衛生法等に基づいた衛生管理規定（素案）を作成し、衛生委員会の体制や産業医の活用内容等について検討中。</li> </ul> </li> </ul>	B
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 障害者雇用の検討               <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 障害者雇用を実現するために、障害者を対象とした採用職種や業務内容を検討中。</li> </ul> </li> </ul>	C
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 権利擁護の取り組み               <ul style="list-style-type: none"> <li>→ ○権利擁護（虐待防止）委員会の活動 毎月、職員セルフチェックアンケートを実施し、利用者に対する感情や意識について自己確認を行っている。11 月 30 日に利用者、保護者、職員が参加する権利擁護委員会総会を開催し、虐待防止についての意見交換を行った。</li> </ul> </li> </ul>	C



計画内容/実施内容	達成度
<p>○苦情相談  法人オンブズマン 紀 初子氏 (福祉関係者代表)  野口 享子氏 (保護者NPO法人代表)</p> <p>苦情相談窓口開設：啓光学園5回、啓光えがお3回、なかまの樹2回  苦情件数：啓光学園 0件、啓光えがお 0件、なかまの樹 0件</p> <p>・法人本部機能の整備  → 法人本部の組織体制や法人本部業務の予算措置等について、引き続き効率的で効果的な本部機能整備の検討を行う。</p>	<p>C</p>

## II 啓光学園

### 1 施設概要

所在地 東京都多摩市和田 1 7 1 7  
連絡先 電話：042-375-7303 FAX：042-375-7343  
施設の種類 指定障害者支援施設 定員 40名  
福祉型障害児入所施設 定員 10名  
重症心身障害者通所施設 定員 8名  
(従たる施設なかまの樹)  
実施事業 施設入所支援  
生活介護 定員 48名  
短期入所 定員 6名 (多摩市枠 2名)  
多摩市中心身障がい者 (児) 一時保護事業  
日中一時支援事業 (多摩市、八王子市、府中市、日野市)

### 2 実施報告【達成度】

計画内容/実施内容	達成度
(1) サービス提供 ① 職員配置の変更 ・夜間休日の支援と生活介護 (日中活動) の支援を担う職員を専従化し、各部門の業務の円滑化、効率化を図る。 → これまで全ての生活支援員が夜間休日の支援と日中の活動の企画を担っていた体制から、日中の活動を運営管理する専従職員を3名配置し、夜間休日を担当する生活支援員と分業化した。このことにより業務量が大幅に軽減された。	A

計画内容/実施内容	達成度
<p>② 日常生活の支援（障害者支援施設・福祉型障害児入所施設）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="268 376 1216 607"> <p>・地域の情報やイベント、会議等での決定事項や法人の取り組み等の情報提供を行うとともに、利用者に分かり易い掲示方法を工夫する。（継続：サービス向上委員会）</p> <p>→ 「啓光ゆうびん」という利用者向け広報誌を毎月発行し、居住スペースの共用部に掲示し、地域のイベント等の情報提供を行った。</p> </li> <li data-bbox="268 667 1216 987"> <p>・強度行動障害及び行動障害を伴う自閉症の利用者に対する支援の水準を上げるために、「強度行動障害支援者養成研修」に4名以上の生活支援職員を派遣する。（継続）</p> <p>→ 「強度行動障害支援者養成研修」の基礎研修に2名、実践研修に2名の計4名と、「自閉症セミナー」に2名を派遣した。また、自閉症支援における専門家によりコンサルテーションにより7名の事例検討を行った。</p> </li> <li data-bbox="268 1048 1216 1368"> <p>・集団生活におけるストレスを軽減させるため、ハードとソフトの両面の検討を行う。</p> <p>→ ハード面では、利用者の居住スペースにインターネット環境（Wi-Fi）と共用パソコンを設置し、インターネットを楽しめるようにした。</p> <p>ソフト面では、利用者の外出回数を増やすため、職員間で目標値を決めて外出支援を行った。</p> </li> <li data-bbox="268 1429 1216 1659"> <p>・施設からグループホームへの地域生活移行について、家族連絡会や学園だより等で広報活動を行う。（継続）</p> <p>→ 家族連絡会で啓光ホームの整備計画の説明や、10月には啓光ホームの担当職員と世話人による、グループホームでの生活の様子や運営状況の報告といった広報活動を行った。</p> </li> </ul>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>

計画内容/実施内容	達成度
<p>③ 生活介護の活動支援（啓光学園）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活介護（日中活動）を専属的に担当する職員を配置するとともに、作業内容等を見直して活動内容の充実を図る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 日中の活動を専従する職員が、活動プログラムの企画、運営を中心に担う体制となったことから、活動の多様化と支援の継続性が生れ、効率的な運営に変わった。</li> </ul> </li> <li>・体操、音楽、歩行等の身体を動かすプログラムにおいても利用者毎の支援課題を抽出し、講師とともに支援する形式に変更する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 音楽、絵画の個別プログラムでは、新たに利用者毎のテーマを抽出し、実施内容を記録に取り活動内容の振返りに使用した。</li> </ul> </li> </ul>	<p>A</p> <p>A</p>
<p>④ 生活介護の活動支援（なかまの樹）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者及び家族の多様なニーズに対応した柔軟な運営を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 在宅生活が長く続けられるよう家庭環境や主たる介護者の健康面等の聞き取りを行い、ニーズの把握に努めた。</li> </ul> </li> <li>・活動支援、医療的ケア等の業務マニュアルを整備し、業務の標準化とサービスの質を高める。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ マニュアル整備についての話し合いまではしたものの、作成までに至らなかった。</li> </ul> </li> </ul>	<p>B</p> <p>C</p>
<p>⑤ 啓光学園の施設修繕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内装のリフォームの実施に向けて検討する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 第二用地の活用を含めた改修案を中長期検討会で検討した。</li> </ul> </li> <li>・居室の壁紙を2年計画で張り替える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 汚れや剥がれ具合の状況調査を行ったが、施工まで至らなかった。</li> </ul> </li> </ul>	<p>B</p> <p>C</p>
<p>⑥ サービスの見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・半期ごとに支援サービスの見直しを行い、課題を明確にする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 生活支援に実施計画の進行状況の確認や、業務内容や職員体制等の運営面の進捗管理を毎月行うと共に、半期に一度課題の抽出と改善策に結びつける振り返りを行った。</li> </ul> </li> </ul>	<p>A</p>

計画内容/実施内容	達成度
<p>(2) 人材育成</p> <p>① 人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修担当者として主任を配置し、職員毎の研修課題を研修計画に反映させて計画的に実施する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 人事考課の上司面接の際に、職員の業務評価における課題を育成テーマとして「個人研修計画・評価シート」に個々にまとめ、職員の育成に努めた。</li> </ul> </li> </ul> <p>② 研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・階層別研修は新任研修に新入職者全員、育成研修（旧中堅層研修）に4名以上、チームリーダー研修に4名を派遣する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 新任職員研修に1名、中堅職員研修に5名、チームリーダー研修に4名の計10名の職員を派遣した。</li> </ul> </li> <li>・技術習得研修は10名以上の職員を派遣する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ ○支援技術に関する研修（自閉症セミナー、強度行動障害支援者養成研修、東社協利用者支援研究会等：計20名）</li> <li>○サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者研修（各3名）</li> <li>○キャリアアップ研修（スーパービジョン研修、若手リーダー研修等：6名）</li> <li>○その他の派遣研修（計6名）</li> </ul> <p style="text-align: right;">合計35名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*研修を受講する際の代替職員として、「東京都代替職員の確保による障害福祉従事者の研修支援事業」による派遣職員を、延べ68名活用した。</li> </ul> </li> <li>・職員が受講した外部研修成果を、内部に還元することを目的に「研修報告会」を実施する。（継続） <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 2月に予定していた「研修報告会」は、自閉症支援に対する施設内研修に変更した。</li> <li>○職場内研修－7月4日（水）</li> <li>『脳の機能障害から支援を考える』</li> <li>○職場内研修（自閉症支援研究プロジェクトチーム主催）－2月20日（水）</li> <li>『自閉症スペクトラム証の支援に必要な理解について』及び『事例検討』</li> <li>講師：TUSUC株式会社：渡邊 倫氏</li> </ul> </li> </ul>	<p>B</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>C</p>

計画内容/実施内容	達成度
<p>(3) 運営体制</p> <p>① 権利擁護（虐待防止）の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者へのサービスを良質なものにするための聴取や、サービス内容の点検を「サービス向上委員会」、権利侵害の防止については「虐待防止委員会」が担うことによって、多面的に運営体制を強化する。（継続） <ul style="list-style-type: none"> <li>→ サービス向上委員会では、利用者のサービス満足度における指針づくりのための検討を開始した。権利擁護（虐待防止）委員会では、全職員に対する虐待防止研修と生活支援課職員に対し、事例検討の研修を行った。</li> </ul> </li> </ul> <p>② 防犯・災害対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月、不審者等への対応や防災訓練、また、災害時における初動訓練を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 避難訓練の実施に留まり、不審者対応の訓練は実施出来なかった。「災害時事業継続計画（BCP）」の策定により、災害時の初期対応訓練を実施した。</li> </ul> </li> </ul> <p>③ サークル等への活動支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者が主体となって取り組む活動について支援や補助を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 利用者主体のサークル活動としてマラソン部のサポートを行った。（毎週土曜日の午前中）</li> </ul> </li> </ul>	<p>B</p> <p>B</p> <p>A</p>
<p>(4) 地域との連携</p> <p>① 行事・イベント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏祭りは、地元自治会と企画の段階から連携すると共に、新たな協力先の確保や、規模の拡大等を検討し、地域への関わりを増やす。（継続） <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 地域自治会と共催の夏祭りは、企画の段階から連携をとり地域の方が楽しめる内容とした。また、新たに参加していただける団体もふやしたが、天候不良により中止となった。</li> </ul> </li> </ul>	<p>B</p>

### 3 参考資料

#### ① 職員構成

平成31年3月31日現在

職種	雇用形態	人数	常勤換算	
			成人	児童
施設長	常用	1		
総務課長	常用	1		
総務	常用	3		
管理栄養士	常用	1		
サービス管理責任者	常用	1	1	
児童発達支援管理責任者	常用	1		1
看護師	常用	3	2	1
看護師	パート	1	0.9	
児童指導員	常用	2		2
保育士	常用	4		4
生活支援員	常用	24	24	
生活支援員	有期契約	3	2.5	
生活支援員	パート	6	1.7	
理学療法士	パート	2	0.3	
運転手	パート	1	0.4	
医師	嘱託	3		
合計		57	32.8	8

## ② 利用者の状況

### <児童>

定員	現員	愛の手帳				備考
		2度	3度	4度	計	
10	男 4	3	1	0	4	
	女 5	2	0	3	5	
合計	9	5	1	3	9	

- ・退所2名－成人施設1名、グループホーム1名
- ・入所1名－措置1名

### ○稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
延開所日数	300	310	300	310	310	300	310	300	310	310	280	310	3,650	3,650
延利用者数	285	279	270	279	270	239	239	240	243	237	224	246	3,091	2,950
稼働率	95%	90%	90%	90%	90%	90%	77%	80%	78%	76%	80%	79%	85%	81%

### <成人>

定員	現員	障害支援区分				備考
		4	5	6	計	
40	男 23	9	11	3	23	
	女 18	3	6	9	18	
合計	41	12	17	12	41	

- ・入所1名

### ○入所稼働率

上半期	4月	5月	6月	7月	8月	9月
延開所日数	1,200	1,240	1,200	1,240	1,240	1,200
延利用者数	1,180	1,198	1,183	1,219	1,168	1,173
稼働率	98%	97%	99%	98%	94%	98%

下半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
延開所日数	1,240	1,200	1,240	1,240	1,120	1,240	14,600	14,600
延利用者数	1,222	1,163	1,170	1,163	1,128	1,249	14,216	14,111
稼働率	99%	97%	94%	94%	101%	101%	97%	97%



○生活介護稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
延開所日数	902	943	902	943	943	902	943	902	943	943	820	943	11,029	10,999
延利用者数	888	915	894	934	884	879	936	878	891	860	815	931	10,705	10,599
稼働率	98%	97%	99%	99%	94%	97%	99%	97%	94%	91%	99%	99%	97%	96%

<なかまの樹>

定員	現員		障害支援区分				備考
			4	5	6	計	
8	男	5	0	0	5	5	
	女	1	0	0	1	1	
合計	6		0	0	6	6	

○稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
延開所日数	160	168	168	168	184	152	176	168	152	160	152	160	1,968	1,912
延利用者数	81	85	82	85	90	77	76	66	75	76	63	79	935	1,001
稼働率	55%	49%	48%	53%	63%	53%	50%	43%	53%	61%	51%	52%	48%	52%

③ ショートステイ

区分	定員	利用実人員	利用延日数	平均利用日数
短期入所	4	206	769	3.73
日中一時	-	84	131	1.56
多摩市	2	143	586	4.10
合計	6	433	1486	3.43

○短期入所稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
延開所日数	120	124	120	124	124	120	124	120	124	124	112	124	1,460	1,460
延利用者数	59	56	59	66	66	70	80	78	58	55	43	79	769	774
稼働率	49%	45%	49%	53%	53%	58%	65%	65%	47%	44%	38%	64%	53%	53%

○多摩市短期稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
延開所日数	60	62	60	62	62	60	62	60	62	62	56	62	730	730
延利用者数	51	45	53	56	58	47	51	44	44	39	45	53	586	610
稼働率	85%	73%	88%	90%	94%	78%	82%	73%	71%	63%	80%	85%	80%	84%

### Ⅲ 啓光ホーム

#### 1 施設概要

施設の種類の種類	共同生活援助	20名
＜啓光ホーム石村（定員5名）＞		
所在地	〒206-0002 東京都多摩市一ノ宮4-27-12	
連絡先	電話・FAX：042-339-7513	
＜啓光ホーム伊野（定員8名）＞（平成30年年12月15日啓光ホームおおぐりへ移転）		
所在地	〒206-0003 東京都多摩市東寺方645-2	
連絡先	電話・FAX：042-319-3380	
＜啓光ホームおおぐり（定員8名）＞（平成31年1月1日付より事業運営開始）		
所在地	〒206-0002 東京都多摩市一ノ宮4-39-15	
連絡先	電話・FAX：042-319-3380	
＜啓光ホームいずみ（定員7名）＞		
所在地	〒206-0001 東京都多摩市和田1721-7	
連絡先	電話・FAX：042-401-9331	

#### 2 実施報告【達成度】

計画内容/実施内容	達成度
(1) サービス提供	
① 日常生活の支援	
・自分で行うこととサポートを受けることを利用者と支援者の双方で確認し、快適な生活を送るためのサポートを行う。	B
→ 個別支援計画とは別に『サポートシート（自分で行うこと、サポートを受けること、家族が行うことがそれぞれ記載してある書類）』を、全利用者にて作成すると共に、必要に応じて夜間における支援や帰宅時の支援等も項目に盛り込んだ。課題として、断片的な活用に留まり、日常的に活用するまでに至らなかった。	
・利用者の意思が反映できるよう、自己選択と自己決定の支援を実践する。	A
→ ○休日の過ごし方を自ら考えて決められるよう、場所や時間の使い方等の選択肢を提案した。	
○飲酒、たばこ等の嗜好品については全面的な禁止とはせず、過剰摂取した場合の健康への危険性や他者に与える影響や危害等を利用	

計画内容/実施内容	達成度
<p>者の特性に合わせて説明した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者主体の共同生活が営めるよう利用者による寮会議（話し合い）を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 3箇所ホームでそれぞれ2ヵ月1回のペースで実施した。</li> </ul> </li> <li>・共同生活において自立した生活を目指すため、精神的なケア及びコミュニケーションスキルのケアに対してSST（ソーシャル・スキル・トレーニング）を導入した支援を実践する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 自分の気持ちを上手く伝えられない時や、感情を上手くコントロールできない時等、相手の気持ちの解説や正しい方法をSSTの手法を用いて社会性を高める支援をした。また、精神上で課題のある方は、対応方法や服薬内容等を医師に相談し、助言に基づいた支援を行った。</li> </ul> </li> </ul>	<p>B</p> <p>A</p>
<p>② 健康管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者一人ひとりの健康状態を把握し、必要な通院等の計画を立てて健康管理に努める。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 内科、精神科等の定期通院には必要に応じて支援員が同行し、日常生活における注意事項や指示及び服薬内容の変更等を通院記録にまとめ、正確な情報収集と周知を行った。</li> </ul> </li> <li>・高齢化に対し、医療的・制度的な側面を加味したうえでのサービスが提供できるように検討・実践する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 高齢の知的障害者に対する医療的、制度的な知識・情報の収集までではできなかった。</li> </ul> </li> </ul>	<p>A</p> <p>C</p>
<p>③ 日中に活動する場との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日中に活動している場や就労先と連携を深めて情報を共有し、生活の全般にわたりトータル的に支援する体制を整える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 就労先での評価や課題行動なども個別に応じて就労支援センターや計画相談、ケースワーカーと情報を共有し、日ごろから連携を図ると共に、必要に応じてケア会議を行った。</li> </ul> </li> </ul>	<p>A</p>
<p>④ 啓光学園のバックアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・啓光学園の支援体制等のノウハウを活かし、より効果的で良質なサービスを行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 緊急時や夜間の応援や世話人の欠員時に代替要員の派遣等は円滑となるよう、ホームの利用者の情報を啓光学園と共有した。特にメンタ</li> </ul> </li> </ul>	<p>A</p>

計画内容/実施内容	達成度
<p>ルケアに関する支援において協力を得て実際に精神的な安定にもつながった。</p>	
<p>(2) 人材育成</p> <p>① 研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世話人を定期的に「生活寮・グループホーム等ネットワーク委員会」の研修会に派遣し、その役割を学習するとともに他の事業所の情報収集や繋がりが持てるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 生活寮・GH等ネットワーク委員会平成30年度全体会及び研修会 1名</li> <li>平成30年度グループホーム世話人等研修会 7名</li> <li>GH世話人養成研修(中堅職員) 4名</li> </ul> <p style="text-align: right;">計 12名</p> </li> <li>・「権利擁護委員会」の定めるマニュアルを順守し、人権擁護及び虐待防止に関わるチェックリストによる職員の自己チェックや研修を定期的実施する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ セルフチェックリストは全職員毎月実施と虐待防止研修を全員が受講した。</li> </ul> </li> </ul> <p>② 利用者支援や障害・疾病等に関する文書や情報の共有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的に支援に携わる世話人や支援員に対して、支援技術に関する書籍や制度に関わる情報を適宜提供し、より専門的な支援者を目指す。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 意思決定支援に関わる書籍を各ホームへ配布し、常時閲覧可能な状態にした。また、学園の施設内研修(自閉症について)に3名の職員が参加した。</li> </ul> </li> <li>・3箇所のホームの業務の共通化及び標準化を目的とした業務マニュアルを作成する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ マニュアル会議を二か月に一回のペースで実施した。</li> <li>2箇所以上のホームを掛け持ちする場合や支援員が宿直に入る時等にホームの日常の状況が把握しづらかったことから週間予定表を新たに作成した。</li> <li>緊急災害時、利用者不穏時の対応マニュアルは作成途中となった</li> </ul> </li> </ul>	<p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p>
<p>(3) 運営体制</p> <p>① 職員の配置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理者、サービス管理責任者、生活支援員、世話人の役割を明確にし、利用</li> </ul>	<p>A</p>

計画内容/実施内容	達成度
<p>者の個別支援の更なる充実を図る。</p> <p>→ それぞれの役割を運営方針や毎月の会議及び日常の業務連絡等で双方に確認し、日々の支援で実践するよう努めた。</p> <p>・それぞれのホームにおける職員の業務内容を分析し、全てのホームの業務を統一標準化して効率化を図る。</p> <p>→ 生活支援員及び各ホームからの世話人で構成する業務マニュアルチームを中心に検討を進めた。各ホームで抱えている困難ケースや成功例などを話し合い、情報の共有を図った。</p>	A
<p>② 啓光ホームおおぐり移転（12月）</p> <p>・啓光ホーム伊野より啓光ホームおおぐりに12月中に移転を行う。</p> <p>新たな生活環境のもと、通勤経路の確認・訓練、日常生活圏の開拓等フォロー体制を整える。</p> <p>→ 利用者や家族への説明、近隣挨拶、行政手続き、業者との打ち合わせ、引っ越しの準備など法人全体の職員の方々の協力を得て移転できた。また、新たな生活環境から混乱なく日中の活動場に通えるよう、家族をはじめ関係各所と綿密な打ち合わせを行った。</p>	A
<p>③ 会議の体系</p> <p>・家族連絡会を年2回開催する。</p> <p>・各ホームの職員会議を奇数月に開催する。</p> <p>・全ホーム合同の職員会議を偶数月に開催する。</p> <p>→ 家族連絡会は5月と11月に実施した。各会議も計画通りに実施し、家族及び職員間において利用者支援に関する情報共有が図られた。</p>	A
<p>④ 福祉サービス第三者評価</p> <p>・福祉サービス第三者評価を受審する。</p> <p>→ 8月 利用者調査</p> <p>10月 訪問調査</p> <p>12月 評価結果報告会</p> <p>調査機関：特定非営利活動法人 福祉経営ネットワーク</p>	A

計画内容/実施内容	達成度
(4) 地域との連携	
① 行事・イベント	
・ 休日を有意義に過ごせるよう、地域や法人内のイベントの開催及び情報提供を行う。 →唐木田まつりの参加（希望者）	A
・ 利用者主体で行事内容を提案、参加型のイベントを企画する。 →利用者主体の寮会議で宿泊旅行を希望する声が多く上がったことから10月の宿泊旅行を企画し、多数決によって旅行先を決めた。	A
② 地域との関わり	
・ 地域活動支援センターや就労支援センター、計画相談支援事業所、市役所などと連携を図り、多様な福祉サービスの提供に努める。 →「多摩市社会福祉協議会」、「マルシェたまのーま」、「多摩市障害者福祉協会」のイベント情報等を利用者に提供し、参加希望があった場合、開催元との調整を行った。	A

### 3 参考資料

#### ① 利用者の状況（2019.3月末時点）

名称	定員	現 員		支 援 区 分						備 考	
				0	1	2	3	4	5		6
石村	5名	男	1				1		0		
		女	4				1	2	1		
おおぐり 伊野	8名	男	8	1		1	4	2			
		女	0								
いずみ	7名	男	0								
		女	7			2	1	3	1		
合計	20名	男	9	1		1	5	2			
		女	11			2	2	5	2		
		計	20	1		3	7	7	2		

② 稼働率

石村		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
	延期所日	150	155	150	155	155	150	155	150	155	155	155	140	155	1,825
延利用者	140	135	141	145	145	138	148	141	143	144	126	134	1,680	1,615	
5名	稼働率	93%	87%	94%	94%	94%	92%	95%	94%	92%	93%	90%	86%	92%	88%
伊野 おおぐり		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
	延期所日	240	248	240	248	248	240	248	240	248	248	224	248	2,920	2,920
延利用者	229	238	239	233	242	233	237	220	241	234	188	247	2,781	2,817	
8名	稼働率	95%	96%	100%	94%	98%	97%	96%	92%	97%	94%	84%	100%	95%	96%
いづみ		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
	延期所日	210	217	210	217	217	210	217	210	217	217	196	217	2,345	2,345
延利用者	191	188	191	194	184	185	202	192	195	201	221	188	2,332	2,044	
7名	稼働率	91%	87%	91%	89%	85%	88%	93%	91%	90%	93%	113%	87%	99%	87%
合計		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
	延期所日	600	620	600	620	620	600	620	600	620	620	560	620	7,300	7,090
延利用者	560	561	571	572	571	556	587	553	579	579	535	569	6,793	6,476	
20名	稼働率	93%	90%	95%	92%	92%	93%	95%	92%	93%	93%	96%	92%	93%	91%

③ 職員構成

	啓光ホーム石村	啓光ホーム伊野	啓光ホームいづみ
世話人	3名	3名	3名
生活支援員	2名		

# 啓光えがお

## 1 施設概要

所在地	〒206-0032 東京都多摩市 野 3-15-1 多摩市総合福祉センター1階2階	
連絡先	電話：042-376-5044	FAX：042-376-5099
施設の種類	指定障害福祉サービス事業所	
実施事業	生活介護（定員 55 名） 多摩市地域生活支援事業（日中一時支援）（定員 4 名）	

## 2 実施報告【達成度】

計画内容 実施内容	達成度
(1) サービス提供	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりのアセスメントに応じた支援計画の作成・実施、評価を確実に行う。               <ul style="list-style-type: none"> <li>→ サービス管理責任者によりアセスメントや ニタリングの要点についての研修会を行い、個別支援担当職員のスキル向上に努めた。</li> </ul> </li> </ul>	A
<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価委員により支援マニュアルを見直し、支援の向上に努める。               <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 対応、てんかん対応、送 のマニュアルについて見直し、支援の安全性の向上に努めた。また、より安全かつ円滑な食事の提供を目指して、配膳等の食事の準備に関するマニュアルの作成を開始した。</li> </ul> </li> </ul>	B
<ul style="list-style-type: none"> <li>・半期ごとに支援サービスの見直しを行い、課題を明確にする。               <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 支援サービスの評価を半期で行い、昼食時と送 時の移動支援の向上を課題として げた。職員会や 方の報告会にて検討を重、利用者がより個々のペースで場面の移動ができるように支援体制を整えた。</li> </ul> </li> </ul>	A
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産活動（作業）の支援方法について検討し、日中活動の充実を図るとともに、子 造部門の定 に向けて支援体制を整える。               <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 受注作業のマニュアルや部 のレイアウトを整備して作業の効</li> </ul> </li> </ul>	B



計画内容 実施内容	達成度
<p>率と精度を向上させた他、作業工程の分析を行い、利用者が参加できる工程を増やした。子造に関しては環境整備を進めたが稼働率を上げるには至らなかった</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 利用者への日常の情報提供の仕方を工夫する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ イベントの予定などの情報提供方法として、掲示のデジタル化を検討した他、利用者への案内状の配布、予定ボードの増設を行った。さらに効果的な方法を試していく。</li> </ul> </li> </ul>	B
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 各係の日課を見直し、支援体制を整える。 (加工・作係、工・イン係、園・バイオ係) <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 時間と場所の構造化を図るために、利用者の会・報告会の導入、活動グループの人数化、室や織室の利用進、環境の調整などを行い、これらに合わせて支援体制を整えた。</li> </ul> </li> </ul>	A
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 品カタログの更新を行い、進を図る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 品質と生産性の面で持続可能な品のり込みを行い、紙品や品、和子を中心にカタログ作成の準備を行った。</li> </ul> </li> </ul>	B
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 工賃支給の方法について、出来高を反映させるための検討を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 職員会議等で検討した結果、作業の出来高よりも一人ひとりの日中活動の質の向上を重視して、従来の日給制を継続することとした。</li> </ul> </li> </ul>	A
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 利用者の味や得意な活動が継続してできるように、サークルやクラブ活動を支援する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 職員会議等で、サークル・クラブ活動支援について検討を行った。日中活動は利用者の「好きなこと」の延長上にあるべきとの考えをまとめ、日中のプログラム内容を見直すこととした。</li> </ul> </li> </ul>	B
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自宅や医療機関をはじめ相談機関や在宅サービス機関などとの連携により、れ目のない利用者の健康の支援を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 職員による通院同行や他の通院支援サービスとの引継責任者の設置、看護師及び理学療法士による関係機関との積極的な連携により、利用者の健康管理に努めた。</li> </ul> </li> </ul>	A

計画内容 実施内容	達成度
<p>(2) 人材育成</p> <p>① 人材育成の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 育成計画を作成し、計画に った研修を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 人材育成計画をもとに、職員の経 年数にみあった研修に参加させた。(管理職研修 2 名、初任者研修 4 名、サービス管理責任者研修 2 名、権利擁護研修 2 名、その他 7 名)</li> </ul> </li> <li>・ 毎日の準備体操や理 ・方針の 和を全職員が行い、基本 の強化を図る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 準備体操と経営理 と行動規 の 和を毎 全職員で行った。職員の介助中のけがは、前年度 3 件から今年度は 0 件となった。また利用者への 称や支援 の面で改善が見られた。</li> </ul> </li> <li>・ 毎日の報告会で支援事例の協議を行い、支援スキルの向上を図る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 報告会の中で事例を取り上げることを開始し、下期はそれを 10 分間ミーテ ングと 置付け、毎日 1 事例ずつ協議を行った。内容はスタッフルームに書き出し、情報を周知させた。</li> </ul> </li> </ul> <p>② 研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作業支援や身体介護、利用者の特性等について、基本知識の理解と実践のための研修会を 2 月に一度実施する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 車いす操作実践研修、てんかん発作対応、知的障害、個別支援計画、接 の基本、についての研修を行った。研修会の開催は不定期となった。</li> </ul> </li> <li>・ 短時間パート職員向けの研修について検討する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 権利擁護研修をパート職員の勤務時間に合わせて 数回開催することで、運転手を含む短時間パート職員が全員参加することができた。他の研修への参加については引き続き課題とする。</li> </ul> </li> <li>・ 運転手に向けた送 時の運転及び利用者の特性理解に関する研修を取り入れ、安全な送 を する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 毎日の点 で健康状態の確認を行い、毎月のドライバーズ会議ではビ オによる安全に関する啓発の他に利用者の特性理解のための研修を取り入れた。今年度事 0 件(前年度 1 件)、運転マナーに関する苦情は 1 件あり、運転手との面談を行った。</li> </ul> </li> </ul>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>

<p>(3) 運営体制</p> <p>① 円滑な運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者数と営業日数に見合った職員の勤務体制を整える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 土日 日の営業については月ごとにおおむ 1日とし、事前に集めた参加利用者の人数に合わせて適 な職員配置を行った。年間 255 日（前年度 -6 日）営業した。</li> </ul> </li>   <li>・職員全体による会議を毎月確保し、運営方針に基づく支援の を図る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 職員全体による会議を毎月開催した他、毎月の係支援検討会、2 月に支援報告会、3 月に支援計画会を開催し、運営方針の を図った。</li> </ul> </li> </ul> <p>② 権利擁護（虐待防止）の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者へのサービスを良質なものにするための聴取や、サービス内容の点検を「サービス向上委員会」、権利侵害の防止については「虐待防止委員会」が担い、多面的に運営体制を強化する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ サービス向上委員会は支援スキル向上のための検討及び提言、権利擁護（虐待防止）委員会は虐待防止自己点検、当事者からの意見聴取、職員向けの研修を行い、職員の意識向上を図った。</li> </ul> </li> </ul> <p>③ 防犯・災害対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合福祉センターとの連携とともに外来者への積 的な挨拶や言 がけを行い、不審な侵入者を防ぐ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 外来者への積 的な挨拶や言 がけを職員の他介護体 、実習生にも した。不審者はなかった。</li> </ul> </li>   <li>・年間計画を作成し、月 1 回災害時訓練（ 災・震災・ き出し・総合福祉センター合同）を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 月に一度、計画的に災害時訓練を実施した。（ 災 5 回・震災 4 回・ き出し 4 回・合同 3 回）</li> </ul> </li>   <li>・保護者との緊急連絡体制を整備するとともに帰宅困難時対応計画を作成する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 送 車用携 電話による緊急連絡体制を 持し、 の際に運用した。帰宅困難時対応計画は法人で作成する災害時事業継続（BCP）計画に組み込むこととした。</li> </ul> </li> </ul>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p>
---	---

計画内容 実施内容	達成度
<p>(4) 地域との連携</p> <p>① 行事・イベント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実行委員の派遣など、地域への取り組みに積極的に協力する。(多摩市障害者 術作品 、多摩市ふれあいスポー など)</li> <li>→ 多摩市障がい者 術作品 、多摩市ふれあいスポー 大会、せいせきさくらまつり、福祉フェスタに実行委員を派遣した。</li> </ul> <p>② ネットワーク事業への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 多摩市障害福祉ネットワーク「たまげんき」、調布・府中・多摩3市ネットワーク、東京都区市 村ネットワーク事業に参加した。</li> </ul>	<p>A</p> <p>A</p>

### 3 参考資料

#### ① 職員構成

平成31年3月31日現在

職種	雇用形態	人数	常勤換算
施設長	常用	1	
事務	常用	2	
サービス管理責任者	常用	1	
看護師	常用	(1)	係長 務
理学療法士	パート	1	0.1
生活支援員	常用	8	8.0
	有期契約	12	12.0
	パート	8	3.9
運転手	パート	4	
医師	嘱託	1	
合計		38	24.0

#### ② 利用者の状況

定員	現員	支援区分				備考
		3	4	5	6	
55	男 32	0	4	13	15	
	女 20	0	2	8	10	
計	52	0	6	21	25	

- ・退所1名－他施設移行1名
- ・入所1名－新 利用1名

#### ○稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
開所日数	21	23	21	22	24	19	23	22	20	19	19	21	254	261
延開所日数	1,113	1,219	1,092	1,196	1,248	988	1,196	1,144	1,040	988	988	1,092	13,304	14,355
延利用者数	1,024	1,069	1,026	1,063	1,125	906	1,121	1,017	953	884	898	1,007	12,093	12,139
稼働率	88%	84%	88%	87%	85%	86%	88%	84%	86%	84%	85%	87%	86%	85%

# 啓光相談支援センター

## 1 施設概要

所在地 〒206-0032 東京都多摩市 野 3-15-1  
 多摩市総合福祉センター1階

連絡先 電話：042-376-5044 FAX：042-376-5099

施設の種類 指定特定相談支援事業所

実施事業 計画相談支援事業

開所日 月・水・金

## 2 実施報告【達成度】

計画内容	実施内容	達成度
(1) サービス提供		
①	・利用者の となる家庭環境や周 との関係状況を把握し、生活全般を見守る。 → 利用者の生活全般に 野を広げて見守ることで、家族の病気や入院などの緊急時にすぐに対応することができた。	A
②	・円滑なサポート体制作りのため、サービス関係機関や地域資 に関する情報を集約し、活用する。 → 新規の通所施設やグループホームなど関係機関の情報を集め、利用者の事情に応じて 介することができた。	A
(2) 人材育成		
①	・相談支援専門員を事例検討や評価方法に関する研修に派遣する。 → 市役所主催の連絡会（2回）をはじめ、相談支援従事者現任研修、介護保険に関する研修に参加した。	B
②	・相談支援専門員の配置を継続的に 持するため、後継職員の育成を進める。 → 1名の職員に相談支援専門員初任者研修を受講させ、資格を取得させた。	B

計画内容 実施内容	達成度
<p>(3) 運営の工夫</p> <p>① ・利用件数に見合った効率的な業務計画と具体的な業務マニュアルを作成する。 → プラン作成と ニタリング実施計画を立て、業務の効率化を図った。業務マニュアルは作成できなかった。</p> <p>② ・ ニタリング報告書作成や訪問先への移動などにおける業務の効率化を図る。 → 数の ニタリングを一度に行えるよう訪問時期の調整を行うなど、業務の効率化を図った。(訪問 134 回)</p>	<p>B</p> <p>A</p>
<p>(4) 地域との連携</p> <p>① ・サービス事業所などの関係機関や市役所への訪問を行い、情報交換を綿密に行うことで、地域資 の実情を把握する。 → 関係する事業所には必ず訪問し、連携を強化した。</p> <p>② ・サービス担当者会議を に開催させ、途 れのない支援を目指す。 → サービス担当者会議を 7 回開催し、継続した支援を実施した。</p>	<p>A</p> <p>A</p>

### 3 参考資料

#### ① 職員構成

平成31年3月31日現在

職種	雇用形態	人数	常勤換算
施設長	常用	1	務
相談支援専門員	常用有期	1	1
合計		2	1

#### ② 利用者の状況

利用者数（録）120名

#### ③ 実績件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
サービス等 利用計画	9	10	7	7	14	10	12	7	8	6	11	18	119	77
ニタリング	11	6	10	5	8	5	11	10	9	8	14	12	109	128